

中1学年通信

NO, 12

平成23年7月4日発行

☆ すべてが修行！ ～ 知恩院宿泊研修 ～

6月30日(木)～7月1日(金)の1泊2日で、知恩院宿泊研修に行ってきました。初日の昼食から、食作法に従って、無言で頂きました。おハンや食器の音が小さく響く中、みんなはどんなことを考えたでしょうか。普段なら、何気なくただ食べているだけの食事でも、無言で食べることで、例えば目の前にあるご飯粒一つ、おかず一つのことを考えませんでしたか。自分が生きていくために、この食事を作ってくれた人が存在すること。肉や魚一つ、野菜一つ、お米一つを作ってくれた人が存在すること。それらすべての人たちがいるからこそ、自分は生きている、生かされていると思えたのではないのでしょうか。そこに生まれる「感謝」。自分を取り巻くすべてのものに、「感謝」して生きていけるって、素晴らしいことだと思いませんか。決しておごり高ぶらず、謙虚にものごとを受けとめて、「感謝」の気持ちで周りの人に接していける人。それは本校が生徒諸君に求めている姿でもあります。

人は一人では生きていけません。大自然の中、宇宙の中、自分の命が生まれ、生かされているのは、「おかげ」や「恵み」によるものであること。そのことに気づくことがこの研修の意義でもあります。

作業も全員頑張りましたね。とくに『写仏』では、みんな黙々と筆ペンを走らせていました。極細のラインを写し取る時に息を止めて書いている人や、スケッチブックを動かしながら、どうすればうまく写せるかを工夫している人など、かなり真剣に取り組んでくれました。全員未完成で持ち帰っているのだから、戻ってから、授業や夏休みを使って、仕上げをしていきます。秋の文化祭の学年展で、展示をしますのだから、お家の人にも見て頂きましょう。その後、このたびの「東日本大震災」で亡くなられた方の供養として、送らせて頂く予定になっています。各自きれいに仕上げてくださいね。

『諸堂参拝』では、3グループに分かれ、知恩院内の普段見ることの出来ない場所に連れて行って頂きました。「知恩院の七不思議」は、わかりましたか？

『雑巾がけ』では一斉にタイムを計っての拭き掃除。一生懸命拭いてくれましたね。

短い日程でしたが、みんなにとって、すべてが修行でした。そして、一番感動したのは、やはり「帰敬式」でしょう。真っ暗闇の中、こわごわ歩いた廊下の先で、一人ひとりに持たされた、たった1本のろうソク。それは自分の命の光。そのろうソクを全員で寄せ集めた時、あれ程暗闇だったあたり一面が、まばゆいくらいの輝きを放っていました。みんなの命の輝きを確認することが出来た瞬間でした。

小さなケガと、後半体調不良になってしまった人もいましたが、それぞれ最後まで無事研修を終えることが出来ました。みんなの心に芽生えたもの。命を大切にする心。感謝する心。そして仲間を大事にし、互いに協力しあう心。きっとみんな、この研修で、一歩成長してくれたことと思います。

今回の研修のために、前日から用意のお手伝いをして頂いたり、お弁当の準備を下された保護者の方に、心から感謝致します。ありがとうございました！

合掌

①入山…重い荷物を持ちながら。



②開講式…ちょっと緊張して。



③写仏…みんな真剣です。



④講話の時間…合掌の姿が美しい！



⑤夕食…無言で頂きます。



⑥諸堂参拝…知恩院の七不思議！



⑦雑巾がけ…心を込めて清めます。



⑧閉講式…感謝の心で。



物に感謝。
人に感謝。
そして、命に感謝。
…。